

2021 年 3 月期第 4 四半期決算 WEB 会議 議事録 主な Q&A

日時 2021 年 5 月 10 日 月曜日 14:00～14:50

○質疑応答○

Q 1. 加工事業本部の今期見通しについて

業務用が緩やかに回復し、コンシューマの伸び率が徐々に鈍化していくと考えているが、引き続きコンシューマ比率の拡大を目指し、既存ブランドの拡販や常温商品等の新商品の販売を強化する。昨年、外部環境の影響もあり経費も大きく減少した。本年も効率的に運用すると共に、製造ラインの合理化などに取り組み、利益率を高めていきたい。

Q 2. 食肉事業本部の今期見通しについて

国内外での調達と国内販売を強化していく。国内の調達は、牛はアセットの外部化を行い、パートナーと協働する。豚は、自社生産指標の改善と外部提携を強化する。鶏は自社を強化しつつ、外部調達も行うことで、供給力を強める。海外は、大手調達先との連携を強化し、調達リスクの低減に努める。国内の販売では、注力チャンネルに資源を投入していく。また、ブランド食肉の拡販に向けて、マーケティングも強化していく。

Q 3. 海外事業本部の今期見通しについて

ポラテリテイの低減に向けて、加工品事業を中心とした海外売上高の拡大を図る。具体的には、北米において加工品販売を強化するとともに、アセアン地域の製造拠点では、対日向け販売に加え、地域内での加工品販売も拡大していく。ビジネスモデルの変革と牛肉ビジネス等の既存事業についても収益の安定化に向けた構造改革を進めていく。現在、BPU（ウルグアイ）において中国向け輸出の禁輸措置が取られているため、当局との交渉を進めるめるとともに、日本・韓国等のアジア地域での販売増を目指す。

Q 4. 今期の食肉市況の見通しについて

飼料価格の上昇もあり、輸入食肉は高く推移する見込みである。牛肉や豚肉は飼料価格の上昇に加え、米国国内での堅調な消費と、世界的な需要の高まりもあり、当面高値が続くと見ている。加工原料と輸入鶏肉は前期に比べて高くなると見込んでいる。

Q 5. DX 費用の発生について

今期の DX 費用は加工事業本部 26 億円、食肉事業本部 24 億円、合計 50 億円を見込んでいる。個別最適なシステムから全社共通システムへの変更、業務効率化、デジタルを活用したビジネスモデルの構築を進めていく。

以上